

スミレ工作所、術後の廃液処理 低価格で

2017/1/9付 | 日本経済新聞 朝刊

医療機器などを手掛けるスミレ工作所（大阪府寝屋川市、松本照造社長）は整形外科などで出る手術後の洗浄液を低コストで処理できる装置を開発し、販売を始めた。電気を使わず、病院内で使う吸引・空気圧設備を活用し、廃液処理にかかる費用を通常の20分の1以上に抑える。

手術で出た廃液を除菌する。1時間置けば、水道水や圧縮ポンベを使って排水口に流せる状態になる。廃液に手を触れず処理できるため衛生的だ。廃液は1回で15リットル処理できる。

これまでは主に使い捨て容器に入れ、燃やしたり、洗い流したりしていた。専用容器が不要になる。例えば、18室の手術室を持つ1千床以上の大型病院では運用コストが年50万円程度で済む。奥行きと幅が約40センチで、高さ85センチ。重さ33キログラム。定価は税別360万円。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

術後の廃液処理 低価格で スミレ工作所

医療機器などを手掛けるスミレ工作所（大阪府寝屋川市、松本照造社長）は整形外科などで出る手術後の洗浄液を低コスト

で処理できる装置を開発し、販売を始めた。電気を使わず、病院内で使う吸引・空気圧設備を活用し、廃液処理にかかる費

用を通常の20分の1以上に抑える。手術で出た廃液を除菌する。1時間置けば、水道水や圧縮ポンプを使っ

て排水口に流せる状態になる。廃液に手を触れず処理できるため衛生的だ。廃液は1回で15リットル処理できる。

た。専用容器が不要になる。例えば、18室の手術室を持つ1千床以上の大型病院では運用コストが年50万円程度で済む。奥行きと幅が約40センチで、高さ85センチ。重さ33キログラム。定価は税別360万円。